シニア世代の身の回りの危険と事故防止対策

日頃の生活の中でお気付きの方も多いと思いますが、日常生活には多くの危険が潜んでいます。ちょっとした不注意が大きなケガにつながります。事故から身を守るために、身の回りの環境を見直しましょう。東京都が実施したアンケート調査結果※より、実際に起こった事例をご紹介します。

※「シニア世代の身の回りの事故防止ガイド　ヒヤリハットレポートＮｏ．５」東京都発行より

家庭では、様々な事故が発生しています

１．階段でスリッパが滑って、転落した。

＜注意点と事故防止対策＞

階段では、手すりにつかまって一段ずつ足の位置を確認しながら上り下りする。スリッパを履かないほうが安全。

２．台所で調理中に腰が痛くなり、鍋に火をつけたまま居間で休んでいたら、火をつけているのを忘れてしまい、鍋を焦がした。

＜注意点と事故防止対策＞

ガスコンロは、安全装置付のものを使う。コンロから離れる時は、たとえ短時間でも必ず火を消す。

３．風呂場で、イスに座ろうとしたら、洗い場に残っていたセッケンの泡でイスが横滑りして、転倒した。

＜注意点と事故防止対策＞

風呂場用のイスは、底に滑り止めのついたものを使う。洗い場に残ったセッケンやシャンプーの泡はこまめに洗い流す。

４．園芸用殺虫剤のノズルがよく見えず、自分に向って噴射したために目に入った。

＜注意点と事故防止対策＞

殺虫剤を使用する時は、ゴーグルやマスク、手袋などを着用する。

長期間使用している電化製品類も要注意です

①永年使っていた扇風機が止まったので、羽根ガードの中に指を入れたところ、羽根が急に回転して指を切った。

②石油ストーブの自動点火装置が壊れたので、マッチで点火したところ、一気に火が燃え上がり、ヤケドした。

③延長コードに傷がついたため、ショートして発火しカーペットが焦げた。

＜注意点と事故防止対策＞

「おかしいな？」と思ったら、一旦使用を中止して、取扱説明書を確認し、販売店やメーカーなどに相談する。日頃から点検を行い、早めに異常を発見する。

おケガに対する保険手当て

当社では、日常生活中のケガを補償する「傷害保険」を取り扱っております。
シニア世代専用の傷害保険もございますので、詳しくは当社担当にお問い合わせ下さい。

株式会社　富士商會